

**第 4 7 回（平成 3 0 年度）全国豆類経営改善共励会  
全国農業協同組合連合会長賞受賞者  
概 要**

**大豆 家族経営の部**

川崎 修（山形県東置賜郡川西町）

大豆作付面積		1.8ha			
品 種	里のほほえみ	単 収	229kg/10a	上位等級比率	0.0%
				労働時間	3.5hr/10a

**【技術改善への取組】**

- 川西町は産地交付金のメニューとして排水対策助成に取り組んでおり、川崎氏は全ほ場で弾丸暗渠と明渠を施工し、湿害防止、初期生育確保に努め、土づくりのため鶏糞と一発基肥を組み合わせた施肥体系により追肥作業を省略し、さらに培土作業の効率化を図っている。
- 播種時の碎土率向上、平畦播種等、6月中には出芽を整え早めの中耕により根圏環境改善を図り、開花期には地下灌漑により開花期の生育量を確保し、着莢数増加対策の徹底を行っている。
- マメシンクイガ防除効果の高い剤を導入し、雑草による汚損粒防止のため除草効果の高いディスク式培土機を導入し、適期に培土を実施し、早めの雑草防除を行っている。刈取り前は大型雑草の手取りを徹底し、培土後のラウンドアップ剤散布を組み合わせ、後半増えるツユクサ、イヌホオズキの発生を抑制している。今後、防除の効率化を図るため、ラジコンヘリ防除組織の立ち上げを検討している。
- 干ばつや高温等気象条件が不良な中でも、川崎氏の平成28～30年産の単収は県平均単収比145%～203%と県平均を上回る成績だった。

**【経営改善への取組】**

- 平成12年より転作品目として大豆作付を開始し、共同作業を行うNTT生産組合の中で栽培技術の研鑽を図ってきた。川崎氏の大豆圃場は他生産者の見本となっており、栽培技術レベルが高く評価されている。
- 播種機の共同利用や町の大豆乾燥・調製施設への作業委託により生産コストの低減に取り組み、資材はJAの秋注文・秋配達を利用し、物財費削減を図っている。川崎氏自身の機械修理士の技術を生かし、所有する機械は自らメンテナンスを行っており、機械の長期利用につなげている。
- 川崎氏の所属する大豆生産組合では、大豆の収穫作業受託を15ha引き受けており、機械のメンテナンスについて組合員へアドバイス・指導を行い、機械の故障、不具合の削減に役立っており、生産性向上に寄与している。

**【販売・消費拡大への取組】**

- 山形県で運営する「山形県大豆プロジェクト会議」のフォーラムや現地検討会に参加し、実需者からの要望を聞き取り、栽培計画を決定し、品質向上につなげている。実需者からは、置賜地域の大豆は糖分が多いということで、品質面の評価が高く、入札価格においても平均価格を上回る約9,000円/俵の価格で取引されている。

# 川崎 修（山形県東置賜郡川西町）



〈出芽がきれいに揃った大豆圃場〉



〈除草剤散布〉



〈川西町大豆協生産議会主催の  
大豆圃場巡回の様子〉



〈受賞者 川崎修氏〉